

《江戸城外堀巡り、四谷見附から山王・日枝神社へ》

前日の雨も上がり、春の日差しも穏やかになった、3月6日（火）に、今回は運営委員の案内で総勢23名、東京の四谷から赤坂まで、江戸城の外堀の見附跡を訪ね、巡ってきました。



《赤坂プリンス・クラシックハウス前で》

グランドプリンスホテル赤坂休館は、現在「赤坂プリンス・クラシックハウス」として残され平成23年（2011）には、東京都有形文化財に指定され、美しいチューダー様式の洋館は、見事な佇まいを見せています。解散後、ケーキとコーヒーを楽しみました。



《江戸城の堀の様子・・地図面からみる》

中央付近の太く見える濠が現在もある内堀、外枠の水色標記部分が外堀のあったところです。外堀は現在一部しか残っていません。



《大久保利通公哀悼碑》

明治 11 年（1878）5 月 4 日に、内務卿大久保利通が旧加賀藩士島田一郎らに暗殺されました。それが今回散策で歩いた、紀尾井町にある、ここの紀尾井坂で「紀尾井坂の変」と呼ばれています。現在、NHK 大河ドラマ・「西郷どん」で放送中です。



《赤坂見附にある見附跡の石垣》

江戸時代の赤坂御門は、大山に参詣する大山道の起点で、重要な地点でした。

「見附」とは、街道の分岐点など交通の要所に置かれた「見張り所」です。

江戸城の見附は、枡形になった御門を設置しました。その門のあったところの石垣が残されていますが、現在文化庁の指導のもとで、江戸城完成 400 年を迎える 2036 年に向けて史跡として整備保存していくことになっています。



《西念寺・服部半蔵の槍》

文禄2年（1593）に越町・清水谷に服部半蔵正成によって開山されてお寺です。
 服部半蔵は徳川家康の三河以来の旧臣で伊賀者を支配し、槍の名人忍びの達人として知られ、「鬼の半蔵」の異名をとった人物です。正成が16歳の時に三河宇土城を夜襲し戦功を立てたため、家康から褒美として贈られたという「槍」が『服部半蔵の槍』、本堂に保存されています。
 私たちは、本堂に上げていただき、ご住職から、来歴の詳しいお話を伺いました。



《山王・日枝神社で参加者一同の満足の笑顔》

日枝神社は、鎌倉時代初期に、秩父重継が奉祀した、山王宮に始まるとされています。その後何度か遷座をしたが、明暦大火の後現在地に遷座された由。明治維新の東京遷都によって江戸城は皇居となり、日枝神社は皇城镇護の神として皇室の御崇敬がことに篤いとのこと。
 江戸三大祭り、日本三大祭りとして、山王祭は知られています。